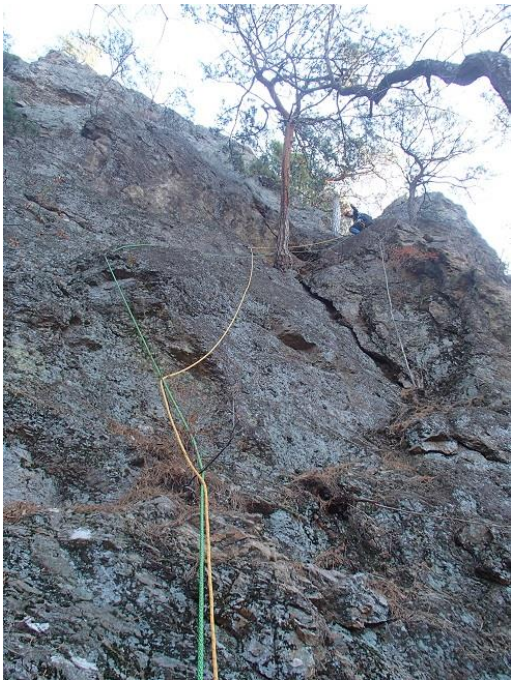
西上州・鍬柄岳　南稜

2020年12月13日

メンバー：Ｔ野・Ｎ山・Ｋ林・Ｔ中Ｊ・Ｈ本・Ｓ口



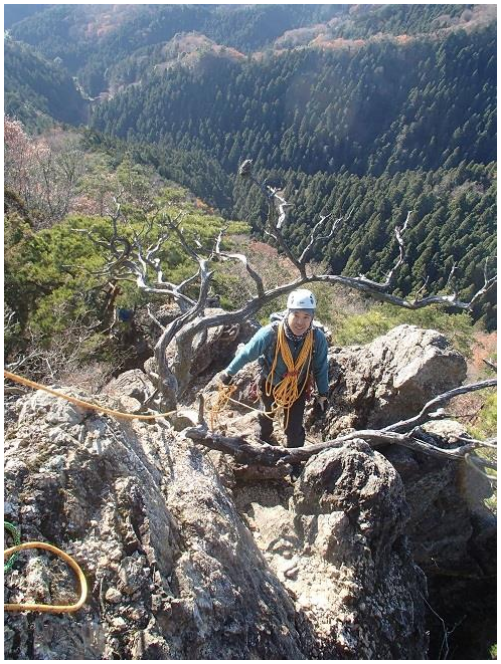
　ネットで見つけた西上州のプチバリルート、記録は２～３散見されるだけだが、それを読む限り我々のレベルでも充分行けそうな気がする。しかも、標高は500ｍそこそこで南面なので、日当たりも良く、冬でも快適な岩登りが期待できそうだ。つまり、この初見バリルートはハラハラドキドキ少しワクワク！！メンバーも岩慣れた人がエントリーしてくれたので一安心。この状況を一言で表現すれば「非常に楽しみである！！」ということになる。では報告です。

　前夜は「道の駅下仁田」で前夜祭、我々と似たようなパーティーがいる。翌朝のコンビニでも鉢合せ、行動パターンが同じでもしや同ルートか・・・？　Ｋ林さんが「どこかで見たことある人達だ。」と盛んに昔の記憶を思い出そうとしているが結局かなわず。さりげなくＨ本さんが彼らにルートを聞くと妙義の方らしい。鉢合せは免れた。

　鍬柄岳は拳銃の玉を立てたような顕著な岩峰で道の駅からも近いのだが、辺りを見渡してもそれらしい岩峰は見つからない。地図と首ったけでわかりにくい私道のような道をまずは千平駅を目指し、さらに関東ふれあいの道という狭い舗装道路を少し走ると杉林の中に鍬柄岳登山口の道標があり、車が4～5台置けるスペースがあった。ここに車をデポして7:25出発。ここからモルゲンロートに輝く鍬柄岳が望め、その岩峰は結構迫力があり、雪のない聖地カイラス山のような山容で俄然、登高意欲がわくが、完全な岩峰なので思っていたより難しそうだ。「本当に３級・・・我々に登れるのだろうか？」ポピュラーなルートではないのでハマるとヤバそうだ。記録を読むと楽しく登っているようだが、これを書いた人がもし薮岩の達人だったら・・・・？　少し不安になる。

■登山口からモルゲンロートに輝く鍬柄岳を望む。
■聖地カイラス山。（ちょっと似てません？）
■最初のピッチをリードするＫ林さん。

　少し登ると鳥居のない簡素な神社（阿夫利神社というらしい。）があり、なぜかこの周りだけイチョウの葉で地面を真っ黄色に染める。風情があってここだけちょっと別世界で美し

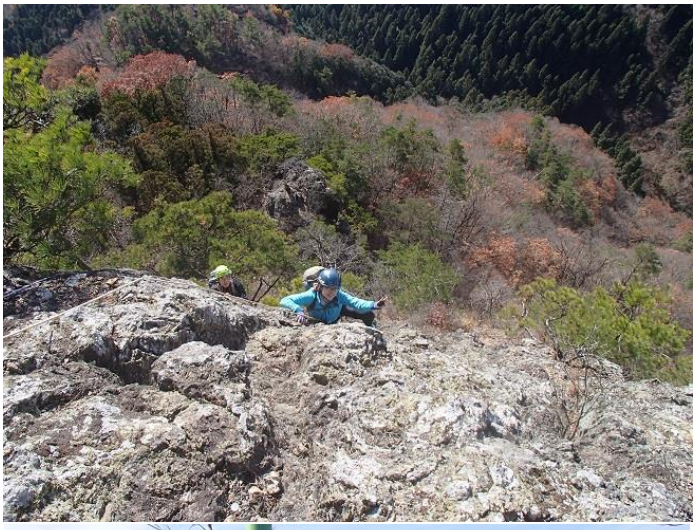


い！！　その後、急な登山道をしばらく登ると岩峰の基部で、どうやらここから登山道を離れて取付くようだ。一番易しそうなとこは傾斜が緩い落ち葉だらけのルンゼであまり美しくない。その左とさらに少し回り込んだところにハーケンがあり何とか登って行けそうな感じだ。この二つのルートをＮ山・Ｈ本・Ｓ口パーティーとＫ林・Ｔ中Ｊ・Ｔ野パーティーに分かれて8:40登攀を開始する。

左に少し回り込んだとこにあるルートはＫ林さんリードで登るが最初のピッチの中間部がホールドが乏しく少し嫌らしいがＫ林さんはスルスル登って行く。私はセカンドでも少し苦労して登る(Ⅳ級－)。　１ピッチ目の終了点で早くもＮ山パーティーと合流。ここからは２パーティーで同じルートを登る。

２ピッチ目は傾斜の緩い岩稜で高度感はあるが易しい(Ⅱ級)。３ピッチ目は一度少しクライムダウンして古い残置ロープのあるフェイスを登る。この辺りから快適な岩登りとなり気持が良い(Ⅲ級-)。

ここまで、いづれのピッチも20～30m位で長いロープはいらない。そして最終の４ピッチ目はこのルートの白眉！！スッキリとした気持ちいいファイスだ。グイグイ登って行くと祠のある山頂に直接突き上げて最高のエンディング！！(Ⅲ級)。



結局、3人パーティーで１時間半ほどのショートルートクライミングだったが、１ピッチ目が一番難しかった。全体的にはやや脆く落石要注意だが概ね快適なルートで、よく探せば残置ハーケンもある。結局、持参したカムやハーケンは使用しなかった。初級者がマルチの脆い岩登りルートの基本を学ぶには良いルートだと思う。何といっても、山頂にダイレクトに登れるのが気持ちいい！！山頂からは西上州の個性ある峰々が一望できて気持ち良い。皆でグータッチ。

■2ピッチ目の易しい岩稜を登るＴ中Ｊさん。
■快適な最終ピッチを登るＳ口さんとＨ本さん。
■鍬柄岳山頂！！後方は荒船山と鹿岳（？）

さて、下降は鎖がずっと張られていて、それを頼れば難しくないが、高度感は半端なく、鎖に手を触れずに下降すれば結構緊張する。私は安全第一で鎖に頼って下降したが、自信のある人はぜひ手を触れずに下降してみてください。高度感抜群のクライムダウンの練習になると思います。10分程で基部まで降りることができた。

結構早く終わってしまったので下部の岩場で岩トレを実施。しかし、リードして登ったルート以外は傾斜も強くとにかく脆い。とてもじゃないが危険でリードはお奨めできないのでトップロープにして遊んだ。それにしても最近頻繁に岩トレしているＮ山やＫ林さん・Ｈ本さんはさすがに上手い。傾斜のある脆い岩壁をものともせずガシガシ登っていた。ただ、とにかく岩が脆く落石がバンバン落ちるのでビレイヤーは

細心の注意が必要だ。登っている人の真下に装備などを置きっぱなしにしない方が良い。
　私は体が慣れておらず怖さが先に立って思い切ったムーブができず、結局、トップロープをかけるために最初にセカンドで登った1ピッチ目を少しルートを変えてリードしただけ。でも何とかリードできたので、今度は全ピッチリードで登ってみたいという思いを胸に鍬柄岳を後にした。